

### 千人目の「君の椅子」、悠真ちゃんへ

10月9日、町内に住む寺崎悠真ちゃん(6月13日生まれ)が千人目の「君の椅子」の贈呈を受けました。記念式典では君の椅子広域連携実行委員会に参加している東川、剣淵、愛別、東神楽、中川、長野県下伊那郡売木の6町村のうち、上川管内5町から各町長が悠真ちゃんにそれぞれ記念品をプレゼントしました。



町地域交流センターの交流プラザでセレモニーを開きました。お父さん、寺崎孝幸さん(35)、お母さん、幸恵さん(32)に抱かれ、長男隼都(はやと)君(6才)が松岡市郎町長と「君の椅子」プロジェクトの磯田憲一代表2人から記念の椅子をもらいました。

誕生を記念して愛別町から花火打ち上げ、東川町からは木工時計、剣淵町からは絵本、東神楽町からは木製写真立てなど、特別なプレゼントも。5年前、南町3に自宅を新築し、旭川市西神楽から転居してきました。「幼児センターにいっぱい友だち出来たよ」と航琉君と悠真ちゃんにとってはこの町が故郷。孝幸さんは、西神楽

で水田14畝、畑12畝を経営する父親と一緒に就農している3代目の後継者として、毎日実家に通っています。2006(平成18)年から始まった「君の椅子」プロジェクトは、今年売木村が新たに加わりました。東川町では初年度に51人の新しい命に椅子をプレゼント、以来毎年50人から60人程度、延べ481人(今年3月31日現在)の新たな命に椅子をプレゼントしてきました。

ベトナムの高校生が森林療法学び

ベトナムの高校生が日本のヘルス産業創出事例を学ぶため来日し、東川町の取り組みを学びました。ホーチミン市のマリ・キュリー高校とチュン・ヴォン高校の14歳から17歳までの生徒と先生17人。10月8日からキトウシ高原ホテルに宿泊し、旭川医科大学・住友和弘医師の研究室で森林療法の研究室を見学。キトウシ森林公園では森林ウォーキングを体験しました。森林ウォーキングの効用は①心肺機能



能を高める②骨を強くする③筋力低下を防止する④持久力を高める⑤生活習慣病の予防⑥ダイエット効果⑦ストレス解消⑧脳の活性化とされています。歩く前と歩いた後の血圧チェック、アミラーゼ測定でストレスチェックを行い、住友医師の講義を聞きました。写真の町での体験として、期間中町内中心街でまち撮り撮影も。国立研究開発法人・科学技術振興機構の「さくらサイエンスプラン」支援事業の一環として招きました。

### クラピオーラ、バイオリン、ピアノのコンサート

9月28日、幼児センターと地域交流センターでクラピオーラ、バイオリン、ピアノのコンサートが開かれました。クラピオーラ奏者の折重由美子さん(広島市在住)とバイオリニストの市山信子さん(同)。町内在住の友人でピアノニスト、三島智子さんと3人が地域交流センターで初めてのミニコンサートを開きました。曲目は童謡「里の秋」、わらべ歌



「通りゃんせ」やアニメソングから「レット・イット・ゴー」「妖怪ウォッチ」など7曲。やさしい音色が会場に秋のひと時を満たしました。毎年三島さん宅を会場にコンサートを開き5年目。今年は幼児センターでも2年目のミニコンサートを開きました。

### ハロウィーン、今年も大はしゃぎ

10月11日、小学生のためのプレ英語クラブ、めだかクラブが農村環境改善センターで恒例のハロウィーンパーティーを開きました。約120人の幼児と小学生がお母さん、お父さんと一緒に参加しました。会場は魔女の帽子や魔法のぼうし、マントを羽織ってパーティー気分の子どもたちでいっぱい。顔にお化粧やクモなどをペインティングしてもらったら、会場内のゲームをひと巡り。



未来の占いコーナー、キャンディーをもらえるトリック・オア・トリート(お菓子をくれなきゃいたずらするぞ)、マスクとクモの手づくりコーナー、ボウリングゲームに加えて、ミイラ男コンテストが初登場しました。もちろん真つ暗なお化け屋敷めぐりは一番人気。会場のあちこちから歓声や悲鳴がいつぱい。

町のALT(英語指導助手)、カトリナ・カイヤさん、ハル・ストウツさん、イーヴィー・ウーさん3人と

CIR(国際交流員)としてウズベキスタンから9月に来町したニグマノヴァ・ナルギーザさん、クリスタ・ボグダノヴァさんらメインスタッフに加えて、旭川、東神楽、富良野、岩見沢、深川、遠別、湧別7市町からALT11人、旭川市内の藤女子高校UL(国際学習)コース12人の生徒も初参加でお手伝いに来てくれました。

### 忠別湖畔での年目の植樹

9月26日、忠別湖畔の散策広場で6年目の植樹を行いました。同広場周辺の緑化事業として忠別湖周辺環境保全実行委員会(事務局・東川町商工会)が取り組んでいます。6年目の今年は、広場を囲むように外周にエゾムラサキツツジ、ドウダンツツジ合計約430本の苗木を植樹しました。

### 新米キャンペーン、今年も盛況

新米シーズンの到来に合わせて恒例の新米キャンペーンが9月26日から3日間町内で行われました。東川町地域農業推進協議会、東川町特産品ブランド化推進協議会(事務局・役場産業振興課、東川町農協)の主催。収穫が始まったばかりの新米を本格出荷に先駆けて食べてもらう、というもの。



町内3カ所の引き換え販売所のうち、毎年お客さまが最も多いのは道の駅・道草館。午前9時早々から切れ間なく次々と新米を買い求めるお客さんが訪れました。家族、親せきからの申し込みをまとめて台車に積み、10袋以上を積み上げる方もいっぱい。人気の限定キャンペーンなので、昨年から一人当たりの申し込み数を限定しました。特に数に限りがある「ゆめぴりか」は一人10kg(5kg袋×2袋)に限定引き換え可能日も1日少なくなったことが相まって、昨年より163件、2千240kg少ない千288件、2万9千110kgの販売となりました。「ほしのゆめ」は4千286袋、「ゆめぴりか」は千546袋(いずれも1袋5kg)で、「ほしのゆめ」が変わらぬ人気でした。

### 2010(平成22)年、エゾヤマザクラ70本の植樹から始まりました。

2010(平成22)年、エゾヤマザクラ70本の植樹から始まりました。2年間エゾヤマザクラを植樹し、ツツジは4年目の植栽です。

